

初開催

災害薬事コーディネート研修を 開催しました！

災害医療ACT研究所との共催で、災害薬事コーディネーター委嘱後初の研修会を開催しました。災害時の保健医療福祉体制の中で、多職種多機関の連携には薬剤師の役割が期待されることを踏まえ、災害時の医薬品等供給及び薬剤師派遣に係る調整能力を養うことを目的として研修に臨みました。

- 開催日 令和4年11月23日（水）
- 場所 東北大学災害科学研究所（仙台市青葉区荒巻青葉468-1）
- 出席者 14名
（災害薬事コーディネーター9名 行政薬剤師2名 DMAT帯同薬剤師1名
宮城県医薬品卸組合2名）

研修内容の例



情報-JoBS

問い合わせ事項等が記載された約50枚のカードを分類・整理することで情報管理の手法を演習しました。

いつ・誰からの情報なのかを明確にし、対応の優先度を定めるよう情報分類整理が重要であることや、単に情報を整理するのではなく、その先の対応計画及び実践につなげることが目的であることを学びました。



つなぐーヒモバシルトキ50

情報を繋ぐための計画及び課題整理のために「ヒモバシルトキ」（人・物・場所・システム・ルール・時）の観点で対応する手法について演習しました。

各班に出された課題（①被災地に臨時薬局を開設する②インフルエンザ蔓延時の対策③病院に薬剤師を1ヶ月以上派遣）に対し、ヒモバシルトキを検討しながら解決策を検討しました。



つなぐー資源管理

与えられた課題（①「災害時における県内の薬剤師の状況把握のために必要なシステムのあるべき形」②機能停止した医薬品卸売販売業の店舗から考えられる薬剤供給計画）に対し、解決のための企画立案の内容について班ごとに発表しました。



▲ 研修の全体風景

本研修は毎年度開催し、災害薬事コーディネーターのスキルアップを図るとともに、当面は委嘱したすべての災害薬事コーディネーターに受講していただけるよう調整します。



▲ 記念撮影